

平成19年度「専修学校・高等学校連携等職業教育推進プラン」成果報告書

事業名	埼玉県における専修学校、高等学校の連携による職業教育体験学習『わくわーく仕事塾』		
法人名	社団法人埼玉県専修学校各種学校教育振興会		
学校名 ((2) のみ)			
代表者	会長 岡本比呂志	担当者 連絡先	新井征一 TEL 048(865)2195

1. 事業の概要

○事業の主題・ねらい

専修学校、高等学校との連携を図り、専修学校の専門的な知識や技能を活かし、高校生を対象とした多岐に亘る分野において職業教育体験学習を実施することにより、職業意識の醸成と就労観の育成を図る。

○実施内容

実施委員会を核として事業全体の調整を図り、高等学校との連携、事業の評価を行った。さらに、分科会を設け、参加高等学校との連携を一層蜜にし、各専修学校での職業教育体験学習の円滑な運営を図った。また、高校生のニーズに応えられるよう多岐に亘る分野のプログラム策定調整を行い、積極的に職業教育体験学習の構築に取り組んだ。その結果、参加専修学校は19校、24プログラム、計画どおり職業に必要な知識、技能、資格等の講義と体験学習のカリキュラムが実施された。参加高等学校は21校、生徒数192人(1年126人、2年43人、3年23人)であった。

参加高校生にアンケートを実施、また、参加高等学校にもアンケート調査を行った。さらに、実施専修学校にもアンケートを実施し、多角的に事業評価を試みた。実施報告会は、参加専修学校19校の担当者により、実施状況の報告、カリキュラムの評価、実施後の意見・感想、次回に向けての課題等について積極的に報告・協議

①目的・重点事項の達成状況

本事業では、受入予定高等学校数20校、生徒数200人とした目標を立てたが、実際には受け入れ高等学校数21校、生徒数192人であった。この結果、高等学校との連携は、極めて高い達成度と考えられる。

一方、専修学校は実施校19校、24プログラムが実施された。プログラムは、工業4、医療6、衛生5、教育・社会福祉3、服飾・家政2、文化教養3の6分野であった。また、その中でのカリキュラムの内容は、自動車整備をはじめ多岐に亘り展開することができ、高校生のニーズに応えられ、多くの職業の体験学習を実施することができた。この面での達成度も非常に高いと考えられる。

参加高校生のアンケートでは、「わくわーく仕事塾に参加してよかった」が184人(95.8%)、「普通」が8人(4.2%)、「悪かった」は0人であった。また、「将来の仕事を考える上で参考になりましたか」の問いに「参考になった」が186人(96.8%)であった。参加高等学校へのアンケート調査では、「わくわーく仕事塾は生徒の職業教育として有意義であった」が18校(94.7%)、残り1校は、「より職業理解に重点を。やりがいのあるところ、辛いところも入れてほしい」との希望があった。また、プログラムの内容は、適当であった」が19校(100%)であった。さらに、「生徒はとても有意義な時間を過ごしたようです。有難うございました」、「とても良い試みで、是非続けていただきたい」等の意見、感想が聞かれた。実施専修学校のアンケートでは、「生徒の反応は良かった」が21校(100%)であった。このように、参加生徒、参加高校生、実施専修学校の三者とも高い評価とともに目的が十分達成できたことがうかがえる。

②事業により得られた成果

○高校生を対象として多岐に亘る分野において職業体験学習の実施

専修学校は、19校で24プログラムを実施した。プログラムは、工業分野では、「自動車整備の仕事を知ろう」、「自動車整備・板金塗装の仕事を知ろう」、「Webデザインの仕事を知ろう」、「パソコンを使う仕事を知ろう」、医療分野では、「看護師の仕事を知ろう」、「視能訓練士の仕事を知ろう」、「鍼灸師の仕事を知ろう」、「医療事務の仕事を知ろう」、「臨床検査技師の仕事を知ろう」、「医療事務・調剤事務の仕事を知ろう」、衛生分野では、「調理師の仕事を知ろう」(2校)、「美容師の技術を体験しよう」、「理容師・美容師の仕事を知ろう」、「エステティシヤンの仕事を知ろう」、教育・社会福祉では、「介護のプロになろう」、「福祉・保育の仕事を知ろう」、「保育士の仕事を知ろう」、服飾・家政分野では、「アパレル商品製作のパタナーの仕事を知ろう」、「ソーイングの楽しさを体験しよう」、「ファッション業界の専門的な仕事を知ろう」、「DTP&Webデザインの仕事を知ろう」、文化・教養分野では、「動物の仕事を知ろう」、「動物看護師の仕事を知ろう」の広汎多岐に亘る職業に対応することができた。

プログラムの内容については、各専修学校が実績の上に立って「楽しく分かりやすい」カリキュラムの研究を行い、限られた時間の中での効果的な体験学習を実施した。高校生にとっては初めての経験である体験学習は、職業教育の根源に触れるものとの考えに立ってカリキュラム編成に力点を置いている。

○高等学校との教育連携

埼玉県高等学校進路指導研究会を核として高等学校との連携を図っている。この「わくわく仕事塾」事業に理解を示し協力をいただいている。特に、進路指導主任が出席する埼玉県高等学校進路指導研究会総会において、事業等の説明の機会を与えられ理解をいただくまでに進展している。埼玉県高等学校進路指導研究会は、埼玉県教育委員会の指導のもとに高等学校の進路指導を計画的具体的に行われている公的な組織である。この事業の実施にあたり、埼玉県、埼玉県教育委員会、埼玉県高等学校進路指導研究会の後援をいただき、高校生の職業教育体験学習のバックアップをいただいている。個々の高等学校に対しては、事業の報告と協力のお礼のために参加高等学校を訪問し、校長、進路指導主任等に直接お会いして理解を図っている。

③今後の活用

(社)埼玉県専修学校各種学校教育振興会では、平成18年度から高等学校と連携を図り、高校生を対象として多岐に亘る分野において職業教育体験学習を実施し、職業意識の醸成と就労観の育成を図ってきた。本年度は、この事業が文部科学省委託事業として採択され一層重みを増した。この結果、高等学校連携をさらに強化し、高等学校の信頼を得、専修学校の専門的な知識や技能を活かして、さらに、この事業で得られた成果を活かすとともに、課題の解決に積極的に取り組み、高校生を対象として継続的に事業を展開していきたい。

④次年度以降における課題・展開

本事業で得られた成果の上に立って、次の観点について、より一層課題の解決を図っていきたい。

○専修学校がより多く参加し、県内のどの地域でも受講できるように対応したい。さらに、一層多岐に亘るプログラムが計画・実施できるよう推進を図る。

○プログラムについては、各専修学校とも「楽しく分かりやすく」を心がけて、編成し実施した。しかし、高校生にとっては初めての体験学習であり、職業教育の根源に触れるものとの考えに立って、さらに、効果的なプログラム・カリキュラムの編成を図りたい。具体的には、限られた実施時間の中でのカリキュラムの内容の充実、高校生が良く理解できる内容及び資料の検討、時間配分の検討、安全面の検討等である。

○高等学校との連携では、埼玉県高等学校進路指導研究会を核として行ってきたが、引き続きこの教育連携の強化を図っていきたい。また、参加高等学校との連携をさらに推進し、より多くの高等学校と生徒の参加協力が得られるよう努めていきたい。高等学校との連携で、もっとも重要なのは、「わくわく仕事塾」事業の目的の理解を得ることである。専修学校の体験入学とは異なることを根気強く説いていきたい。

職業教育のスペシャリストである専修学校が高校生の職業意識の涵養を図るために積極的に今後とも事業を展開していきたい。

3. 事業の実施に関する項目

①職業教育体験講座の実施

多岐に亘る分野での24プログラムを下記のとおり実施した。

プログラム名	専修学校名	期日	受講者数
1 自動車整備士の仕事を知らう	越生工業技術専門学校	7/26・27	10人
2 自動車整備・板金塗装の仕事を知らう	埼玉工業専門学校	7/27・28	11人
3 Webデザインの仕事を知らう	中央情報専門学校	8/3	3人
4 パソコンを使う仕事を知らう	東都コンピュータ専門学校	8/31	9人
5 看護師の仕事を知らう	浦和学院専門学校	7/25・26	14人
6 視能訓練士の仕事を知らう	浦和専門学校	7/23	2人
7 鍼灸師の仕事を知らう	浦和専門学校	7/23	3人
8 医療事務の仕事を知らう	中央情報専門学校	7/30・31	8人
9 臨床検査技師の仕事を知らう	東武医学技術専門学校	8/23・24	7人
10 医療事務・調剤事務の仕事を知らう	東武医学技術専門学校	8/23・24	4人
11 調理師の仕事を知らう	国際調理師専門学校	8/29	16人
12 調理師の仕事を知らう	ワタナベ学園調理師専門学校	7/23	2人
13 美容師の技術を体験しよう	専門学校東萌ビューティカレッジ	8/25	10人
14 理容師・美容師の仕事を知らう	ハンサム銀座理容美容専修学校	8/3	16人
15 エステティシヤンの仕事を知らう	埼玉東洋医療専門学校	8/23・24	3人
16 介護のプロになろう	関東福祉専門学校	8/9・10	2人
17 福祉・保育の仕事を知らう	埼玉福祉専門学校	8/6	15人
18 保育士の仕事を知らう	東萌保育専門学校	8/25	22人
19 動物の仕事を知らう	大宮国際動物専門学校	7/23	15人
20 動物看護師の仕事を知らう	大宮国際動物専門学校	7/24	11人
21 アパレル商品製作のパタンナーの仕事を知らう	川口文化服装専門学校	7/26・27	2人
22 ソーイングの楽しさを体験しよう	山口文化服装専門学校	8/2・3	1人
23 ファッション業界の専門的な仕事を知らう	大宮文化デザイン専門学校	7/31・8/1	1人
24 DTP&Webデザインの仕事を知らう	大宮文化デザイン専門学校	7/31・8/1	3人

参加高等学校へのアンケートでは、「わくわく仕事塾は生徒の職業教育として有意義であった」が18校(94.7%)、残り1校は、「より職業理解に重点を。やりがいのあるところ、辛いところも入れてほしい」との希望があった。また、「プログラムの内容は適当であった」が19校(100%)であった。さらに、「生徒はとても有意義な時間を過ごしたようです。有難うございました」、「とても良い試みで、是非続けていただきたい」等の意見、感想が聞かれた。

実施専修学校のアンケートでは、「生徒の反応は良かった」が21校(100%)であった。

このように、参加生徒、参加高等学校、実施専門学校の三者とも高い評価が得られ、目的が十分達成できたことがうかがえる。

②その他

○専修学校・高等学校の連携により事業を推進し、実施を図ったことが大きな特色である。しかし、高等学校では、専修学校の学生募集のための体験入学との受け止めての警戒心もある。この職業教育体験学習の目的を浸透させ、理解・協力を得ることが一部では難しい面もある。これらを如何に払拭するかが、連携の大きなポイントである。そのためには高等学校との信頼関係を培うことが肝要であり、もっとも工夫を要した点である。

○専修学校の専門的な知識や技能を活かし、現役の高校生に対して職業意識の涵養を図ることは、専修学校にとって初めての経験である。学生募集とは異なった視点での教育が求められ、専修学校の力量が問われる体験学習である。限られた時間の中でカリキュラムの編成、楽しく分かりやすい内容、効率的な指導等工夫を要した面である。これらは、今後とも計画的、継続的に取り組み構築を図る必要がある。